

外部評価の公表にあたって

アジア成長研究所(AGI)は 1989 年に国際東アジア研究センターとして設置され、北九州の地にあってアジアの経済・社会問題を研究しながら国際学術交流を促進するなど、多くの皆様のご支援とご協力のもと、着実に実績を重ね、今日に至っている。

ここに公表する外部評価報告書は、現中期計画を基に、2025 年度における当研究所の目的、組織、運営、研究活動の総体について外部評価をいただき、研究所のさらなる機能改善に向けて示唆をいただいたものである。

今回の外部評価は、アジア経済、産業政策及び都市政策分野の国内外で著名な研究者 3 名に委員をお願いし、2026 年 10 月に実施していただいた。その評価及び意見交換を踏まえて取りまとめたものが本報告書である。

本報告書では、当研究所が国際水準の学術研究を基盤としながら、北九州市への政策貢献を担う研究機関として取り組んできた活動について評価をいただいた。一方、今後さらにその役割を高めるためには、個々の研究成果を研究所全体の重点分野や目的との関係で体系化するとともに、研究者の自由な発想を生かしながら研究所としての方向性を明確にすることが重要であるとの指摘をいただいた。また、市との政策連携については、政策形成の初期段階から継続的に意見交換を行うこと、研究成果の評価については、論文等に加えて政策への活用や社会への発信など多様な成果を捉えることが必要との意見をいただいた。

さらに、北九州市への政策貢献を基礎としつつ、日本の中でもアジアに近い北九州・九州に立地する研究機関として、アジアを研究し、日本とアジアを結ぶことが AGI の重要な存在意義であり、この特徴をより明確に示していくことが望ましいとの指摘もいただいた。

現中期計画は 2026 年度末まで 1 年間延長しており、当研究所としては、今回いただいた評価と提言を踏まえ、今後も「政策シンクタンクとしての貢献」と「アカデミックな学術研究機関としての貢献」の双方を一層高め、2027 年度から始まる次期中期計画に具体化していかなければならないと考えている。

ご多忙中にも関わらず外部評価の労をお取りくださった外部評価委員会の 3 名の委員の方々に、この場を借りて謹んで心から御礼を申し上げたい。

2026 年 10 月 アジア成長研究所 理事長 八田 達夫

外部評価の概要

1. 評価方法

現中期計画に基づく2025年度の取組状況について、外部評価委員から事前に意見をいただき、その内容を反映した外部評価報告書(案)を作成した。

2026年10月5日に開催した外部評価委員会では、同報告書(案)の内容を確認するとともに、現中期計画のこれまでの成果と課題、北九州市からの意見、2026年度の取組状況等を踏まえ、2027年度から始まる次期中期計画に向けた当研究所の今後のあり方について意見交換を行い、評価と助言をいただいた。

2. 外部評価委員会委員(50音順)

浅見 泰司 東京大学執行役・副学長

大橋 弘 東京大学副学長・教授

木村 福成 アジア経済研究所所長、慶應義塾大学名誉教授

3. 外部評価委員会報告書

別添のとおり